

第7代第11特科隊長 廣岡 1 佐着任



(発行所)
11特OB会

(連絡先)
札幌市南区
真駒内17番地
第11特科隊
広報援護室
TEL (011)-581-3191
内線2645

(印刷)
札幌造型合同会社



主な記事

二面 令和元年度冬季隊集中訓練
 三面 令和元年度隊冬季競技会、令和元年度特科隊冬季山岳機動訓練
 四面 令和元年度臨時訓練及び幹部任官式
 五面 令和元年度北海道原子力防災訓練参加、北後志地区入隊予定者激励会参加
 六面 高山隊長離任、転出者・新着任中隊長・転入者紹介



▲巡閲を行う第7代第11特隊長 廣岡1佐

隊は、令和2年3月16日、晴天の中、真駒内駐屯地において、第7代第11特科隊長 廣岡 睦(ひろおか まこと) 1等陸佐の着任式を行った。

新隊長廣岡1佐は、着任式に先立ち、真駒内駐屯地慰霊碑において、殉職者に対する哀悼の意を表すために献花を行い、第11特科隊隊舎において、31名の幹部挨拶を受けるとともに、旅団司令部庁舎において第11旅団長に対して着任申告を行った。

その後、東体育館において、第11旅団長による着任部隊長の紹介を受けたのち、着任式、巡閲及び着任の辞等を実施し、その中で、隊長統率方針「創造せよ」及び要望事項「地域の信頼」「上下左右の連携」「心と体の健康管理」を述べた。

着任式後は、主要装備品である99式自走155mmりゅう弾砲をはじめとする装軌及び車両をもって観閲行進を行い、特科隊の威容及び隊員の士気の高さを確認した。

また、午後からは、初度巡視を行い、勤務隊舎、生活隊舎及び野外施設等を確認・点検し、特科隊の現状を把握するとともに、立会者一人一人に声を掛けつつ、隊員の身上及び意欲を確認した。



▲隊修親会での記念撮影



▲観閲行進により威容と士気の高さを確認



▲着任の辞を述べる廣岡隊長

隊長統率方針

「創造せよ」

隊長要望事項

「地域の信頼」
 「上下左右の連携」
 「心と体の健康管理」

主要勤務歴

平成 8年 10月	第2特科連隊第2大隊 (名寄)
平成 17年 8月	幹部学校付 (第51期指揮幕僚課程) (目黒)
平成 19年 8月	東北方面総監部防衛部防衛課運用班 (仙台)
平成 21年 8月	陸上幕僚監部教育訓練部教育訓練計画課 (市ヶ谷)
平成 24年 8月	第6特科連隊第2大隊長 (郡山)
平成 28年 8月	北部方面総監部人事部厚生課長 (札幌)
平成 29年 12月	陸上幕僚監部監理部総務課監理班長 (市ヶ谷)
令和 2年 3月	現職

着任の辞

目まぐるしい情勢変化や国内での自然災害への対応など、国民、地域の方々の期待がより一層、高まる一方、働き方改革や各種ハラスメント防止など部隊の団結、規律、士気に一層留意した隊務運営が求められている状況にあると認識しており、特科隊長としての重責に身の引き締まる思いであり、地域の信頼、国民の負託に応えていけるよう任務完遂に邁進していく所存である。

隊を統率するに当たって「創造せよ」を統率方針とし「地域の信頼」「上下左右の連携」「心と体の健康管理」の三点を要望し、わが部隊の精強化に、諸官らとともに、邁進することをここに決意し、着任の辞とする。

令和二年三月十六日

第七代 第十一特科隊長 一等陸佐 廣岡 睦

令和元年度冬季隊集中訓練

隊は、令和2年1月27日から1月31日までの間、北海道大演習場(有明地区)において、令和元年度冬季隊集中訓練を行った。

本訓練(隊訓練・中隊訓練)は、積雪寒冷の状況下における、隊の特性に応ずる戦闘行動を遂行できる練度を維持・向上する目的で実施した。

訓練は、宿営地、経路等の偵察に引き続き車両による部隊機動を実施し、集結地到着後は、隊及び中隊計画による訓練を行った。

隊訓練では、冬季における宿営のほか、各雪上車を使用した陣地占領、警戒・自衛戦闘及び冬季の野外炊事能力の向上を目的とした炊事場の開設、温食の調理等を行った。

中隊訓練では、雪上車を使用したジョーリング及び不整地におけるスキー行進により、冬季機動能力の練度を向上させたほか、冬季の特性に応じた射撃陣地への進入準備、気温及び雪質を考慮した射撃陣地の築城、気温地における警戒組織の構成等を行った。

訓練最終日には、各中隊が築城した施設等を相互に研修し、多くの知識や技術を共有し、実りの多い訓練となった。



▲78式雪上車によるジョーリング



▲軽雪上車(スノーモービル)による先行班の偵察



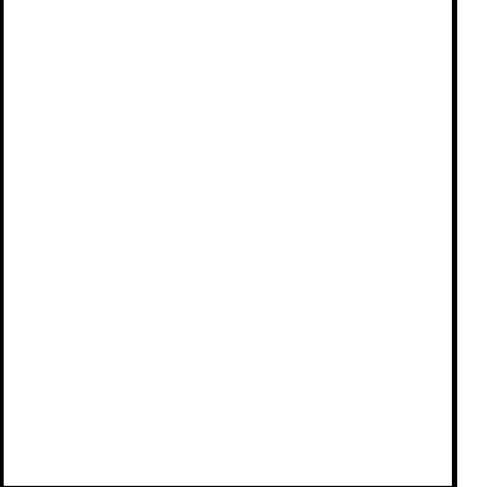
▲重装備による不整地のスキー行進



▲型枠を使用したアイスクリートの作成



▲偽装網下における射撃陣地の築城



令和元年度 隊冬季戦技競技会



▲選手宣誓



▲優勝した第1中隊



▲中隊の名誉をかけ全力で激走

隊は、令和2年2月25日、真駒内駐屯地において、令和元年度隊冬季戦技競技会を行った。

本競技会は、隊員の「冬季戦技能力の向上」を図るとともに、「隊員の士気の高揚」及び「団結を強化」する目的で実施した。

競技要領は、各中隊から抽選・指定要員として選出された15名の選手が、各組ごとの順位に応じた点数を獲得し、その合計点で中隊の順位を競った。

本競技会の特性は、出走順の自由度が高く、組合せにより、どの中隊でも優勝できる可能性があり、各中隊は分析した結果に基づき、綿密な作戦により競技会に臨むとともに、例年に比し、積雪量が少なく、練成期間に制限を受けるなか、零細時間等を活用して冬季戦技能力を向上させてきた。

競技会前日に実施した開会式では、平成29年度冬季戦技競技会優勝中隊の力強い選手宣誓及び統裁官から、要領事項「任務を果たせ」、「安全管理」が示された。

また、競技会当日は晴天に恵まれ、選手達は、中隊の名誉と誇りをかけ、最後まで全力を尽くすとともに、選手以外の隊員達も、選手の激走に呼応して声枯れるまで、熱い声援を送るなど、中隊総力での白熱した競技会となるなか、第1中隊が底力を見せ、見事優勝を果たした。

冬季戦技競技会の実施は、平成29年度以来であったが、各中隊が一丸となり、本競技の目的を達成するとともに、多くの成果を得て競技会は終了した。

令和元年度

特科隊冬季山岳機動訓練

隊は、令和2年1月6日から18日までの間、真駒内駐屯地、キロロススキー場及び同周辺地域を使用して、令和元年度特科隊山岳機動訓練を行った。

本訓練は、各中隊のスキー指導官等から18名を選抜して、隊の冬季山岳機動能力の維持及び新たに参加した隊員の練度向上を図る目的で実施した。

事前訓練では、真駒内駐屯地において、座学及びロープを使用した懸垂下降訓練、要救助者の引き上げ・搬送要領を反復演練した。

生地訓練では、キロロススキー場周辺等において、重装備によるスキー機動、傾斜地を移動する技術及び冬季山岳地帯における地図判読・救出及び搬送訓練を体感気温マイナス20度の厳しい状況下で行い、山岳機動及び遭難者の救出・救助に必要な技術を演練した。

訓練参加者からは、「想像以上に体力の消耗が激しく、冬季における行動の厳しさを改めて実感した。災害派遣活動等の際には、訓練で得た技術を最大限に活かしたい。」等の感想であり、訓練の過酷さや、訓練に向かい合う真摯な姿勢が見られた。

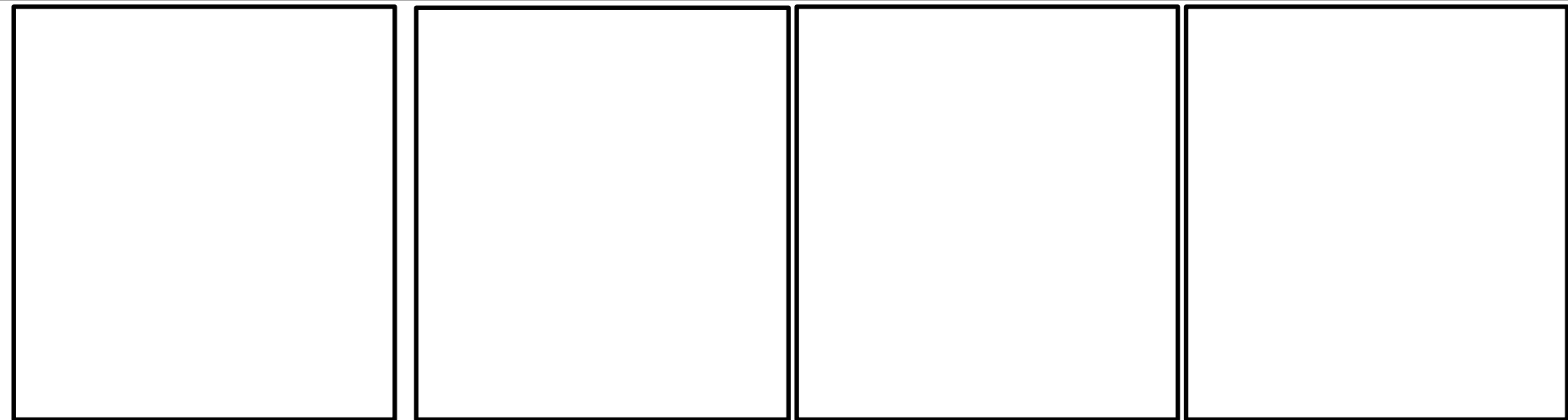
本訓練は、雪山に対する準備や知識の必要性及び隊員個々の技術、相互の連携、リスクマネージメント等、冬季における山岳機動の重要性を再認識した実りのある訓練となった。



▲救助者の引き上げ訓練



▲要救助者の搬送訓練



令和元年度臨時即応訓練及び幹部任官式



▲参加者全員での記念撮影

隊は、令和2年3月14日、真駒内駐屯地及び同周辺地域において、令和元年度臨時即応訓練及び幹部任官式を行った。

本訓練及び行事は、令和元年度3等陸尉任官者4名に対し、臨時即応訓練を実施して、幹部としての災害発生時における初動対応部隊の指揮能力の向上を図るとともに、幹部任官式を通じて、幹部としての重責を認識させる目的で実施した。

臨時即応訓練は、午前5時に状況付与され、災害発生時の呼集伝達、登庁状況の把握、初動対応部隊派遣準備、災害発生想定地域の偵察、広帯域多目的無線を活用した偵察結果の報告、護国神社から駆け足での帰隊、負傷者のトリアージ及び搬送等を行うとともに、集まった多くの特科隊員が見守る中、負傷者搬送等により低下した体力・気力を振り絞り、各人が幹部自衛官としての決意表明を行い、幹部自衛官としての重責の自覚及び使命に対する強い信念を養った。

訓練終了後は、西体育館において、幹部任官式を行い、真新しい幹部用制服に身を包んだ4名が副隊長から3等陸尉の階級章を受領し、幹部任官申告を実施するとともに、4名が声を揃えて澁刺と幹部自衛官の心構えを宣誓して、初級幹部としての第一歩を踏み出した。



▲班員を掌握する初動小隊長 (左)



▲護国神社から駆け足で駐屯地へ帰隊



▲副隊長への申告

～令和元年度認定若き指導官の紹介～

榮譽を称えて

部隊格闘指導官

本部管理中隊 山下三曹



感謝の気持ちを忘れずに、部隊の精強화에貢献できるように、最善を尽くします。

第一中隊 藤本三曹



常に目標を持ち、日々格闘指導官として、心身を鍛え、部隊に貢献します。引き続き頑張ります。

上級部隊スキー指導官

第一中隊 竹田二曹 (上級)



冬季の戦闘行動知識について学ぶことができました。まだまだ未熟ですが、部隊に貢献していきます。

本部管理中隊 高橋二曹



部隊スキー指導官としてのスタートラインに立つ事が出来ました。さらに練度を高め、部隊に貢献します。

第一中隊 齋藤二曹



沢山の方々に支えられ、認定試験に合格することができました。日々精進して、部隊に恩返ししていきます。

令和元年度 北海道原子力防災訓練参加

隊は、令和2年2月13日、北海道古平町周辺において行われた、令和元年度北海道原子力防災訓練に参加した。

本防災訓練は、北海道及び泊原子力発電所立地周辺地方公共団体（10町3村）の共催により、原子力防災対策の円滑化、防災関係機関相互の連携、防災関係者の防災技術の向上、地域住民の防災意識の高揚並びに防災対策に関する理解促進を図る目的で実施された。

訓練は、「冬季の泊発電所において、警戒事態（原子炉冷却材の漏えい）が発生し、全面緊急事態（非常用炉心冷却装置の注水不能、放射性物質の放出）に進展する事態」の想定のもと、陸海空自衛隊のほか、北海道警察、消防、医療機関並びに指定公共機関等、379機関の関係者が参加し、隊は、厳冬期における避難に関する防災関係機関との調整を行い、各機関との事故状況や対応状況等での相互の連絡・通報及び情報伝達要領を確認するとともに、孤立地域と想定された古平町の住民8名を、10式雪上車を使用して、避難指定地域まで安全かつ迅速に輸送した。

隊は、訓練の終始にわたり、整齊と救助活動を行い、任務を完遂するとともに、防災関係機関等との連携の強化を図り、今後の各種活動時の資を得た。



▲10式雪上車を使用した住民輸送

北後志地区入隊予定者激励会参加

隊は、令和2年2月22日、小樽市で行われた、自衛隊家族会北後志地区協議会が主催する北後志地区入隊予定者激励会（以下激励会という。）に参加した。

激励会では、北後志地区の令和2年度自衛隊入隊予定者22名に対し、入隊予定者の入隊意欲の向上に寄与する事を目的に実施され、隊は、同会の整齊円滑な実施の寄与、入隊予定者の入隊前の不安の払拭並びに入隊予定者の御家族に対する自衛隊への理解の深化、「自衛隊家族会との連携」を図った。

激励会は、北後志地区の市町村長など多くの御来賓等が見守るなか、札幌自衛隊家族会北後志地区協議会副会長（水野様）の開式の辞を皮切りに、隊が編成したラッパ隊によるラッパ吹奏に合わせた入隊予定者の入場、来賓祝辞、歓談、北後志地区協議会会長（武市様）からの入隊予定者に対する記念品贈呈等が行われ、歓談時には令和元年度に入隊した隊所属の隊員4名が、自らの体験談を交えた激励の言葉を述べ、入隊者を勇気づけた。

入隊予定者からは、「親元を離れるので不安でしたが、安心しました。一等の声が聞け、入隊予定者及びその御家族の不安も払拭され、その目的を達成するとともに、自衛隊小樽協力会会長（山本様）による万歳三唱をもって、盛会のうちに終了した。



▲第11特科隊隊員によるラッパ吹奏



▲入隊予定者を激励する隊員

令和2年度自衛官等募集内容

- ・一般幹部候補生
資格:22歳以上26歳未満の者
- ・一般曹候補生
資格:18歳以上33歳未満の者
- ・自衛官候補生(男子)
資格:18歳以上33歳未満の者
受付期間:年中行っております。
試験日:受付時にお知らせします。

防衛省自衛隊札幌地方協力本部南部地区隊
〒005-0008 札幌市南区真駒内17番地
携帯 070-6589-0123
広報官 藪本1曹(元第11特科隊)

第6代第11特科隊長 高山1佐離任

隊は、令和2年3月13日、東体育館において、第6代特科隊長高山1佐の離任式等を行い、第11旅団長による、離任部隊長の紹介のほか、巡閲、離任の辞、隊長の見送り等を実施した。離任の辞では、隊長上番間の想いが伝えられるとともに、特科隊の指揮を解かれた見送りでは、隊員1人1人と握手を交わすとともに、第3科長による万歳三唱が行われ、隊の全隊員が見送るなか、第八師団司令部火力調整部長として北熊本駐屯地へ赴いた。



3月転出者

隊本部

三等陸佐 角谷 昭宏
中央業務支援隊付(市ヶ谷)へ

本部管理中隊

一等陸尉 石井 邦明
教育訓練研究本部(北千歳)へ

陸曹長 加賀谷 誠

真駒内駐屯地業務隊(真駒内)へ

陸曹長 小林 宗

俱知安駐屯地業務隊(俱知安)へ

陸曹長 金湖 朋之
高等工科大学(武山)へ

一等陸曹 寺島 久幸
第五特科隊(帯広)へ

二等陸曹 吉田 正樹
第十一旅団司令部付隊(真駒内)へ

二等陸曹 金澤 友明
第一陸曹教育隊(俱知安)へ

三等陸曹 大平 卓
第二百二十警務隊(真駒内)へ

三等陸曹 高橋 悠也
第二特科連隊(旭川)へ

第一中隊

三等陸尉 前川 大輔
第二特科連隊(名寄)へ

三等陸曹 山崎 博史
第二特科連隊(旭川)へ

第二中隊

三等陸佐 千葉 敬
第三地对艦ミサイル連隊(上富良野)へ

一等陸曹 外柳 和麻
第十一旅団司令部付隊(真駒内)へ

二陸曹 川田 和俊
第五特科隊(帯広)へ

第二中隊

一等陸曹 前田 浩貴
第二特科連隊(旭川)へ

新任地での ご活躍を お祈りいたします。

お祈りいたします。

新着任中隊長

第6代 本部管理中隊長



1等陸尉 富田 智之
出身地 北海道
前勤務地 第11特科隊 第4科(真駒内)

第6代 第2中隊長



1等陸尉 村田 智宣
出身地 北海道
前勤務地 第1空挺団(習志野)

3月転入者

隊本部

一等陸尉 吉田 悠
富士学校(富士)より

本部管理中隊

准陸尉 天野 政寿
第四特科群(上富良野)より

一等陸曹 高橋 宏之
第二特科連隊(旭川)より

一等陸曹 石原 博之
第五特科隊(帯広)より

一等陸曹 本田 省起
第二特科連隊(旭川)より

二等陸曹 西岡 専次
第五特科隊(帯広)より

二等陸曹 岡部 力
第十二特科隊(宇都宮)より

第一中隊

陸曹長 潮 保
真駒内駐屯地業務隊(真駒内)より

第二中隊

一等陸尉 村田 智宣
第一空挺団(習志野)より

陸曹長 綿引 清二
札幌駐屯地業務隊(札幌)より

二等陸曹 池田 大助
第十一旅団司令部付隊(真駒内)より

二等陸曹 山下 真司
第二特科連隊(旭川)より

第三中隊

一等陸曹 山野 尊弘
札幌駐屯地業務隊(札幌)より

二等陸曹 宇津野 孝博
函館地方協力本部(函館)より

二等陸曹 久保 雄太
第一陸曹教育隊(東千歳)より

OBの方へ連絡とお願い

一 入門証について

現在、期限切れの入門証をお持ちの方で今後も必要とされる方は、更新手続きをお願いいたします。手続きに関しては、「特科隊広報・援護室」にて行っております。

電話〇一一一五八一―三一九一
(内線二六四七)担当 嶋田

二 叙位及び死亡叙勲に関する手続きについて

自衛隊員として勤務され、在職中の功績と一定の要件が満たされた方は叙勲の対象となります。特に死亡叙勲は、ご遺族からの申し出によって手続きを進める事になりますが、手続きの期間が限られており、この期間を過ぎますと叙勲が受けられなくなりますので、万が一ご本人が逝去された場合には、死亡日を含め五日以内に最寄りの防衛省各機関、部隊等へのご連絡をくれぐれもお忘れ無きようお願いいたします。

三 その他

第11特科隊隊舎一階には第11特科連隊時代の歴史を展示した広報展示室が開設しております。ご訪問の際にはお気軽にお立ち寄りください。

電話〇一一一五八一―三一九一
(内線二六四六)担当 天野

これからよろしく
お願いいたします。